

雪は最高！

乳頭温泉周辺 小白森山、荷葉山、乳頭山

佐藤(耕)、中村、坂村

【日時】2010年12月26日(日)～29日(水)

【メンバー】中村(L)、手嶋、佐藤(耕)、坂村、T氏

年末の乳頭温泉も今年で3回目。ルート選びが、だんだんマイナールートとなってきた。出発まで暖かい日が続き積雪が心配だったが、クリスマス寒波がやって来て、前夜の移動は大雪となった。ここまで降れば大丈夫でしょう。(中村)

【1日目】12月26日(日)：鶴ノ湯～子白森山 [曇/雪]

目を開けたら、まだ福島県内だというのに東北自動車道から下ろされていた。「…夜更け過ぎに、雪へと変わる……」、クリスマス。その先高速にのることができ、田沢湖手前の道の駅で前泊する予定が、ようやく前沢SAに行き着けたくらいの雪だったから、乳頭付近はさぞかし埋もれているだろうと思ったが、鶴ノ湯温泉について歩き始めれば、藪は目立つし笹まで見えているくらい。大白森への道標もまだ顔をのぞかせていて、森は綿雪によりやく包まれはじめたころだった。

森といえばこの地方では山という意味だが、それにしても「小白森山～大白森」のルートの西側に「〇森」が並び、東側には「笹森山・湯森山・笹森山」というのが集まっているのも興味深い。

1時間も歩いたころ、それほど太くない木々に綿雪が付いて、緞帳のような中を抜けていったかと思ったら、急な登りにさしかかった。雪も安定していないし、こ



940mP 付近

ちらは130cmという板に重量のあるのが乗っているの、長めのテレマークに細身の中村君が乗ってトップを行ったトレースを踏み抜いて大汗をかく。手嶋さんが、こいつ、なんて遅いんだと思ったくらい。1時間ほど喘いだら 小白森山の山頂が藪を抜けて現れた。また下って登ってのピークハントはもういいよということで、下ることにする。アスピリンスノーというよりは、

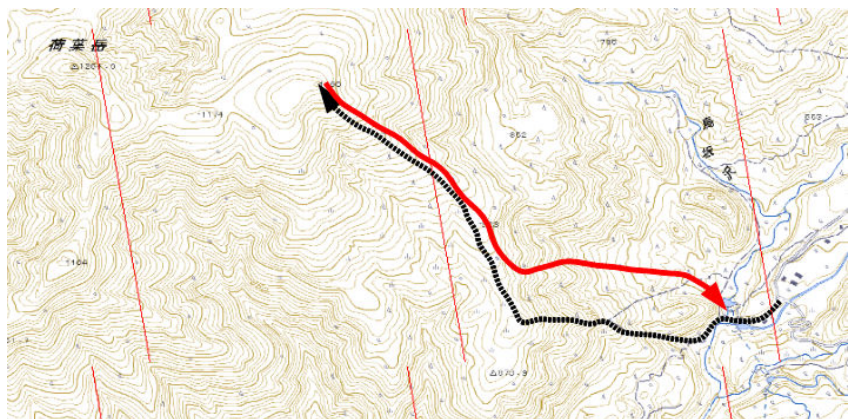
ふわふわ雪といった感じにのって、あつというまに滑り降りたような気がする。

坂村さんは10日ほどひいていた風邪に大事をとって、Tさんも無理せず、この日はお休みだったが、翌日から人数が増えていくのもおもしろいところ。この晩は、月山で翌朝の飯も残らなかった、手嶋さんお家仕込みのハッシュドビーフを堪能し、私にとっては2度目の乳頭スキーの初夜は更けていった。(佐藤)

【2日目】12月27(月)：鶴ノ湯別館～荷葉山手前1190P [曇／雪／晴]

このルート、いくつかの難関が待ち受けている。1つ目は鶴ノ湯から流れ来る沢を渡れるのか？計画段階から気になっていたもので、前日に偵察を行い、堰堤の下側にほとんど水が流れていないことを確認しておいた。

鶴ノ湯別館の前の林道枝道から入る。堰堤の下を対岸に渡る。ここで、第2の難関、873.9三角点のある尾根にどのルートで登るか？昨日、小白森山に登った



感じからすると、登山道を行ったほうが無難そうである。尾根に上がる直前が急になっているが、登山道を進むことにする。登山道も左右二手に分かれるが、右を行くとすぐに枝沢に阻まれ、板を外す必要があるようだ。一旦、渡渉点に戻り左から行くことにする。しばらくは登山道がはっきりとしていたが、ある所から急に登山道が消えた。他に目立つルートはないので、とりあえず沢型を登ることに。しかしこの沢型、登るにつれてだんだんと急になってきて、沢底を直登できなくなってきた。横の斜面を利用して登るが、藪があちこちに出ており、苦勞させられる。最後は尾根に上がり、720mの平に出る。藪に苦勞したため、150m登るのに1時間も要してしまった。

ここからは、しっかりとした登山道が出てきて、藪の苦勞はなくなり、ペースが上がる。しかしこの登山道、歩くには問題ない程度の幅であるが、滑るとなると楽しくない。周りを見渡してみても藪だらけで、一体どこを滑り降りればよいのか？気が重くなる。

873.9三角点のある尾根に出ると、藪から開放されて疎林となる。しかし平坦なのが難点だ。霧の切れ間から、1190Pへの斜面が見えてくる。白い斜面が広がり、滑りに期待が持てそう。問題はこの尾根から下をどうするかだ。ブナの大木が多い沢

型を見つけて、下降ポイントの目星をつけておく。

所々、笹が出ていますが、概ね問題なく滑れる白い斜面。時折青空も広がり見事な景色。遠くには田沢湖スキー場が見える。山頂直下は、やや斜度が上がり疎林となる。1190Pの山頂は、古墳のような10mくらいの凸。しかし、凸よりも周りの木の方が背が高いため、展望はない。時間があれば荷葉山まで行くつもりだったが、既に13時。どうせこの先はアップダウンの道なので、今日はここを最終地点として、滑走の準備をする。

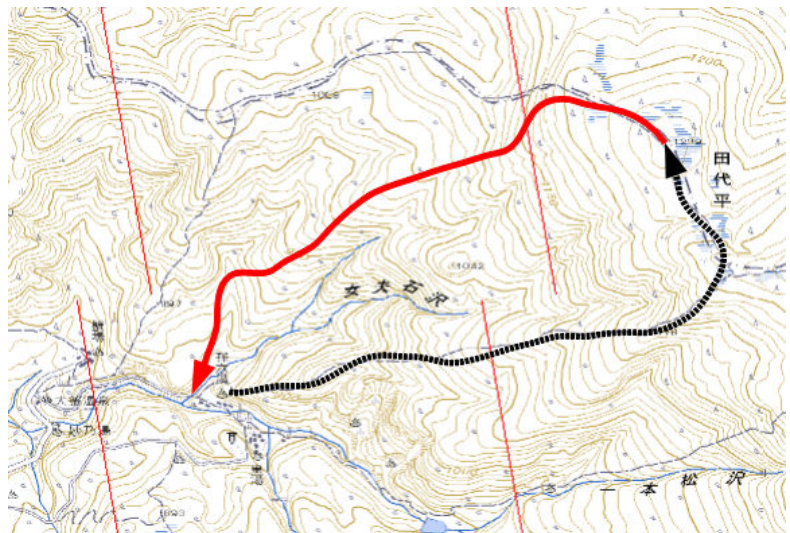


T氏さん

斜度はそれほどなくメローな斜面だが、雪はアスピリンスノー。パウダーを楽しめた。あっという間に、前半戦が終了。目星をつけていた薄い沢型からドロップイン。木がそれなりに疎らでな斜面であるが、所々斜度が急で、なかなかエキサイティングな滑りとなった。標高700mくらいからは、枝沢を何度かスノーブリッジで渡渉し、堰堤の場所に出た。後半も楽しめ、こちらを下りて正解だったようだ。(中村)

【3日目】12月28日(火)：孫六温泉～田代平～女夫石沢右岸尾根滑走～孫六温泉 [曇／晴]

昨日の寝坊の反省から、皆が予定通り6時に起きた。今日はいよいよ去年のリベンジ。悪天候のため行けなかったルートを今回こそ成功させたかった。夕方から夜にかけて荒れるとの予報だが、日中はもちそうだ。味噌の足りない薄味ナメコ汁で元気をつけて出発する。



車は蟹湯温泉の前の駐車場に止めさせていただいた。登りは通い慣れた道だ。孫

六温泉から夏道沿いに山頂を目指す。最初私が先頭を歩かせてもらった。昨日は全くラッセルをしなかったの、今日こそは自分もと思っていた。見慣れたはずの登り口は、雪が少なく藪が出ていたため全く違う場所に思えた。去年はしっかりと付いていた他パーティのトレースが今回はなく、もしかしたら私たちが今シーズンの乳頭山での山スキー一番乗りかもしれないと思った。尾根道は傾斜が緩い。しかし、先頭を交代してもらって息が整ってから私は先頭のスピードに追いつくことができず、結局その後私がラッセルすることはなかった。情けないな〜。

間隔の広い広葉樹林から狭い針葉樹林に変わり、田代平に出た。今日は風もそんなにないので乳頭山山頂を目指すかと思いきや、進路は西へ。「山頂に行かないんですか？」と聞いたら、「みんな何度も行ってるし、行かなくていいでしょ。行きたきゃ行くけど」との返答。ピークハントの間に天気が悪くなって去年と同じく登った尾根を滑るハメになることを危惧しての判断。…というのは表向き半分理由で、残り半分は、先ほどから時々覗いている太陽がパウダーを腐らせる前に滑りたいという理由だったんじゃないかと思う。が、そのどちらもが全員納得の理由であるため、何の迷いもなく悔いもなく滑る尾根を目指すことにした。

いよいよお待ちかねの滑り。田代平は広く平坦であり、目的の尾根自体も最初は顕著な尾根ではないため、暫くはGPSを頼りにした。間違えて隣の尾根に入ると途中で沢が深くなり行く手を阻まれてしまう。先頭の中村さんが随時GPSを確認した。後方の私もGPS操作の練習のため都度自分のGPSを確認したが、地図に出ていない細い沢を何度も渡っているうちに分らなくなってしまう。もっと練習が必要だ。まだ雪が少ないためあちらこちらに笹や小枝が出ていたが、木の



田代平付近



佐藤(耕)さんと手嶋さん

何よりも山頂を犠牲にして得たパウダーが私たち全員を笑顔にした。



この尾根を滑ることについて私が地図を見て気になっていたことが2つあった。目的の尾根に間違えないで入れるかということ、最後の方に待っている渡渉だ。今まで何度か乳頭山に来ていて、この沢が埋まっているのを見たことがない。経験豊富な諸先輩方は「なんとかなるっしょ」と、あまり気にしていない様子だった。そしていよいよ渡渉が必要になり、私たちは少し困った。沢幅は狭いものの、うまく渡れそうな場所がない。雪面から沢床までは1mほど。ここ数日でようやく積もった沢岸の雪は崩れ易そうだ。私はどうしたらいいのか分からないので一人呆然としていたら、皆の出した方策は「板にシールを貼って、一番沢幅の狭いところを強行突破」だった。人が渡るたび雪が崩れて沢幅が広がっていったものの、板をつっかえ棒にしながらなんとか濡れることなく全員…いや、一番体重の重い佐藤(耕)さんは、自分が渡ると雪を大きく崩してしまって他の人が渡れなくなるからと他の渡渉点を探していたら、ふと足元がなくなって一人落っこった。私が心配していると、手嶋さんが「大丈夫、あいつは水泳大好きだから」と和ませてくれた。佐藤(耕)さんは膝から下が濡れたものの、力強く沢から上がってきた。こんな経験を積み重ねるうちに、いつか私も「渡渉あるけど、なんとかなるっしょ」と言えるようになればいいけど。

その後、孫六温泉に続く道に出るまでの僅かな距離はまるでフィールドアスレチック。笹を掴みながら沢岸をトラバースしたり、横に伸びている木の幹の通過に苦戦したり、穴ぼこのトラップに出くわしたり、とにかく面白かった。一般的なルートを気持ちよく滑るのも楽しいが、今回はアドベンチャーなスキーの喜びを感じることのできた素晴らしいルートだった。(坂村)

【4日目】12月29日(水)：田沢湖スキー場 [雪]

前夜は昨年と同じ宿。偶然にもTさんお知り合いのテレマークの先生、阿久津さん(南会津で最近始めたとのこと)も滞在していて、夕食の際にご相席。その後も、ストーブの周りでの飲み語り、楽しい一夜を過ごした。

前夜少し飲み過ぎたのもあり、天気も良くないので、最終日はゲレンデに。ややパックされた雪ではあったが、今年もクタクタになるまで滑り、帰路に就いた。(中村)

【地形図】田沢、秋田駒ヶ岳

【行程】

1日目：鶴ノ湯(11:18)～990P(1:28/1:45)～鶴ノ湯(2:30)

2日目：鶴ノ湯別館(8:44)～広い尾根の上885m(11:15)～荷葉岳東の1190P(12:56/1:20)～900m地点から沢型へドロップイン(1:40)～鶴ノ湯別館(2:55)

3日目：蟹場(8:43)～孫六湯(9:00)～田代平の三又分岐(11:25)～1239P(11:50)～孫六湯(2:03)～蟹場(2:19)